

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校

新座市立第四中学校学校だより 令和8年7月1日 第4号

TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



7月1日は開校記念日

校長 大井 敏彰

今年の6月は最高気温が30℃に届く日が少なく、熱中症の心配がなく過ごすことができました。その反面、梅雨空が続く中、台風の接近に伴う臨時休業や大会の延期などがあり、計画通り進まないことが多々ありました。

そのような中でも、修学旅行や校外学習、生徒総会、学校総合体育大会など、各所で四中生の活躍が見られました。



【6.6 修学旅行クラス別行動 @宇治平等院】

【すべての失敗は脳を成長させる】

一昨日のサッカーワールドカップでは、日本が決勝トーナメントでブラジルに惜しくも敗れてしまいました。日本が先制点を奪いながらも同点に迫いつかれ、試合終盤に逆転されてしまうといった、何とも悔しい敗戦でした。試合後は多くの日本人選手が涙に暮れていました。

同様の場面が、学校総合体育大会でも見られました。力が及ばなかった悔しさ、力を出し切れなかった悔しさ、部活動が終わってしまう寂しさなど、生徒が目目の前の現実に関心極まり、涙する場面を何度も目の当たりにしました。

『英雄の書～すべての失敗は脳を成長させる～』（黒川伊保子著 ポプラ新書）の中に次のような記載がありました。

- 思春期にそつなく生きて『失敗』を回避してしまうと自分らしさを失ってしまう。自分の人生を生きられないから他人ごとになる。
- 失敗とは、脳にとって大事なのである。心を痛めた分だけ、脳はよくなる。ネガティブだと思っていた現象が不可欠である。

「敗戦≠失敗」ではありませんが、うまくいかなかった経験は、脳を成長させるために大きな意味をもっているようです。部活動に限らず、

挑戦の失敗やうまくいかなかった経験は、脳の成長を促し「自分らしさ」を育む絶好の機会であるといえます。今後も様々なことに挑戦し、成功や失敗を繰り返しながら心豊かに成長する四中生であってほしいと思います。

【四中が歩んだ50年】

さて、今日7月1日は開校記念日です。校長室に保管されている過去の資料を振り返り、〇×クイズを作成しました。四中卒業生の保護者の方もお子さんと一緒に考えてみてください。

【四中〇×クイズ！】

- Q1：開校記念日（7月1日）は、四中の校舎やプールの工事が始まった日である。
- Q2：四中の校章は、開校当時在籍していた生徒が作成したものである。
- Q3：四中の校歌は、初代の校長先生が作詞したものである。
- Q4：四中の木はケヤキ、四中の花はアジサイである。
- Q5：開校当初の男子の制服は、黒い詰襟の学生服であった。
- Q6：最も学校の規模が大きかったのは昭和60年で、当時の全校生徒数1194名、28学級であった。
- Q7：現2、3年生が着用している水色のジャージと赤いラインが入った体育着は、平成3年に採用されたものである。
- Q8：吹奏楽部がマーチングバンドの演奏を始めたのは、平成になってからである。
- Q9：平成17年に全国優勝を果たした部活動は、サッカー部である。
- Q10：かつて行われていた「YYフェスティバル」の（YY）とは、（四中、柳瀬）の頭文字である。

回答は後日お知らせしますが、過去の資料を振り返りながら、改めて50年の歴史と伝統が感じられました。2学期には開校50周年記念式典を開催する予定です。保護者・地域の皆様と節目の年をお祝いできればと思います。

特別支援教育支援員の影山葉子先生が、7月3日付で退職されます。

6・7・8組の育児短時間勤務代替教員として、関根美帆先生が7月6日付で着任されます。（月・水・金勤務）